

YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

横浜市歴史博物館



News No. 53
2022.8



Forgetting one's home
and one's parents is the
true mark of a
military commander

企画展予告

追憶の今

横浜・中世武士のイメージとリアル

みんなでつなげる鉄道150年

—鉄道発祥の地よこはまと沿線の移り変わり—

前期を終えて

館長コラム vol.2

第3回 あの学芸員は、いま

追憶の今

横浜・中世武士のイメージとリアル

2022 10/8^土
11/27^日

秋季企画展

「追憶のサムライ —横浜・中世武士の イメージとリアル—」 の開催にむけて

現在放映中のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」は、お楽しみになっている方も多いのではないだろうか。夏以降、物語はいよいよ後半に入り、横浜市ゆかりの武士・島山重忠らの活躍も姿を帯びてくることであろう。今秋、当館では企画展「追憶のサムライ—横浜・中世武士のイメージとリアル—」を開催いたします。その中では横浜市ゆかりの鎌倉武士について、その後のイメージ形成をとりあげますので、ここではその資料を一部ご紹介いたします。

約八〇〇年ほど前にはじまる鎌倉時代は、残存する一次資料（古文書など）がとも少なく、ほとんどは『吾妻鏡』をはじめとする編纂物によってその時代像を形作っています。よってそこで活躍する武士の姿については、なおさら後世の軍記物や芸能の描写を参考にせざるをえません。

横浜市旭区は鎌倉御家人・島山重忠の終焉の地です。島山重忠とは武蔵国島山庄（埼玉県深谷市）を出自とする武士で、長寛二年（一一六四）に生まれ、元久二年（一一〇五）に武蔵国二俣川で討死にしました。享年四二歳。大河ドラマの主人公・北条義時とほぼ同年です。この重忠については『平家物語』や『源平盛衰記』などの軍記物に、例えば「鶴越の坂落とし」で愛馬を背負ったり、「宇治川の先陣争い」で剛力を発揮するなどの活躍が描かれ、それらを母体とした人物像が室町時代のお伽草紙や幸若舞曲に登場し、やがて江戸時代の近松門左衛門「出世景清」の成立により、われわれの知る剛勇・清廉潔白・音曲に秀でる等の重忠イメージが完成していくと考えられます。とくに歌舞伎での重忠は、鮮やかな裁きを下す「さばき役」スタイルが確立していくようです。

重忠の故地・旭区には、現在「首塚」「首洗い井戸」をはじめ、「六つ塚」「駕籠塚」などたくさん重忠伝承地があります。しかしながらこれら重忠へのリスペクトは、かならずしも永続的であったわけではないようです。徳川幕府の編纂した地誌「新編武蔵風土記稿」の「今宿村」・「二俣川村」の項には、「旧跡古戦場跡」と「矢筈ヶ淵」（現在のさかさ矢竹）について重忠の由緒を記していますが、「首塚」「六塚」「駕籠塚」については「由来を伝え



英雄三十六歌撰 島山重忠 梧斎年英筆（馬の博物館蔵・写真提供）
本展のメインビジュアル（本誌表紙）はこの作品を下図とし、新たに描きおこした。

ず」とするのみです。また「片破しどめ（片割れしどめ）」は重忠ではなく、鎌倉時代の伝説の名馬・磨墨（すゐぼく）によって踏みしだかれたと記しています。

では重忠の伝承は、いつから旭区地域により大きく広がっていたのでしょうか。現存する最もふるい資料は、旭区・清来寺蔵の歌集「夏野の露」で、幕末期の成立と考えられます。これは同寺一九代住職宥欣（ゆうきん）と地域の有力者一二名を中心に、重忠を追悼する全七七首の和歌を集めて、地域を俯瞰する視点の絵図（上図）と共に一巻にまとめたもので、歌人には井上文雄や伊能頼則（よりのり）、久松祐之といった江戸の幕臣、国学者でもある人物を筆頭に、安達月識・岡野良哉・荻部吉来といった保土ヶ谷宿の文人たちが加わっていて、当時の旭区の文化ネットワークの広がりがうかがえます。和歌には「鑑ヶ淵」「六塚」（さかさ）「矢竹」などが詠み込まれ、絵図には「駕籠塚」「首塚」などの史跡も描かれています。少なくとも幕末期には、重忠を追悼し事績を称える意識が醸成されていったようです。

やがて明治五年（一八九二）、二俣川村人五五名は、重忠を追慕する「島山重忠遺烈碑」を建立します。題額は横浜築港などに尽力した技術者の石橋純彦で、百束半の撰文、池田昌久書と記します。重忠の生誕地である埼玉県では、すでに明治一二年（一八七九）に古刹慈光寺（ときがわ町）の重忠供養塔の修復に併せて「修建島山重忠公断碑記」が建立され、また同二三年（一八九〇）には地域の有志など三九八名が島山館跡（深谷市）に「島山重忠公碑」を建立しており、旭区でもその影響をうけての建立でしょうか。明治中期から大正期にかけて地域の偉人を顕彰する運動がひろがっていたようです。

その後、関東大震災の被害を越えて、昭和初期からは再び歴史の復興運動が見られますが、やがて戦争の影が濃くなると、地域の偉人は戦意高揚にも利用されていきます。展覧会では中世の資料とあわせて近世・近代における武士イメージの変遷をご紹介します。ぜひご来館ください。（文 阿諏訪青美）

*宇都宮晴子「高木美奈子」島山重忠と唯子川（水辺からのレポート）
横浜唯子川をゆく「川とみず文化研究所」一九八九年には、嘉永五年（一八五二）の成立と記すが現時点でその根拠を確認していない。

夏野の露 部分（旭区・清来寺蔵）

みんながつなげる **150** 年

YOKOHAMA 鉄道 150 年
鉄道開業150周年記念

前期を
終えて

— 鉄道発祥の地よこはまと沿線の移り変わり —

新橋〜横浜間を結ぶ鉄道の開業一五〇周年に際して行われている特別展「みんながつなげる鉄道一五〇年―鉄道発祥の地よこはまと沿線の移り変わり―」も、三月一九日からはじまって六月九日まで、はやくも前期分を終え、おかげさまで、一万五千人の方々にご来館いただきました。ありがとうございます。

展示の企画構想の段階におきましても、いわゆるファミリー層の方々のご来館を想定しておりまして、お子さまをお連れの御父母、御祖父母といった三世代にわたるご家族でのご来館、なかでも就学前のお子さまをお連れになったご家族でのご来館が多く、博物館としても新たなお客様のご観覧に喜んでいただいております。

前期では、ご来館のお客様に、実際に動く展示を目で見て理解していただくことを目的としまして、通常、常設展示室内における学習の場所として開放されている「スタデイサロン」にて、横浜市電保存館より借用いたしましたH〇ゲージによる鉄道模型を



展示室入口

展示、日に十回ほど模型を動かしました。後期では、就学前のお子さまが多いという実情を受けまして、それまでであったH〇ゲージの模型を縮小し、鉄道おもちゃによる横浜市内の路線をイメージした模型を展示しております。こちらでは、各路線間の接続状況や市内における鉄道網の

様子をビジュアル的に捉えるコンセプトで展開し、日に二回ほど実際に動かして運用しています。また、横浜市電保存館より借用いたしました市電シミュレーターもご用意し、実際に運転体験ができる展示も行っております。

この度の展示では、未就学のお子さまへキャプションの解説をしてくださっているお父さんお母さん、展示された資料を見ながら「これは〜」「この電車は〜」とお父さんお母さんに解説していらっしゃるお子さま、「なつかしいわね」と会話されているご夫婦など、横浜や鉄道に対する思いを深めていらっしゃる様子をお見掛けする機会が多々ございました。展示を開催している者として大変うれしく感じております。まさに、展示名にもあげた「みんながつなげる」展覧会(!?)となっておりますので、まだご覧にならないお客様はもちろん、一度ご覧になられたお客様もまたのご来館をお待ちしております。

(文 小林光一郎)



前期 H〇ゲージ
@スタデイサロン

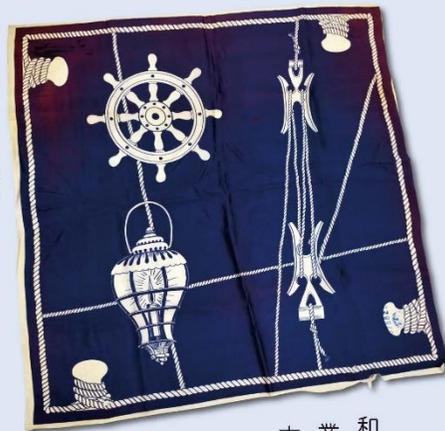


後期 鉄道おもちゃ
@スタデイサロン

◀資料検索画面



▶みなとみらい線の座席のモチーフとなったスカーフ



「横浜スカーフ・アーカイブ資料」が閲覧できるようになりました

横浜のスカーフ産業は、昭和三〇年代を中心に、地場産業として戦後の横浜経済を支えました。海外に輸出するスカーフの意匠登録を管理していた日本輸出スカーフ等製造組合は、平成六年(一九九四)、組合に提出されたスカーフ等約一一万点を横浜市経済局に寄贈しました。経済局では、そのうち約三万点のデジタルデータ化を進め公開してまいりましたが、この度、広く市民に歴史資料として公開するため、全ての資料が当館に移管され、公開されることになりました。横浜で生産された海外向けスカーフのデザインや素材等を知ることのできる貴重な資料です。デジタル化された資料は、横浜中央図書館三階のパソコン(一台)と、当館図書室のパソコンでご覧になれます。

(文 石崎康子)

金属活字、
写植書体やデ
ジタルフォントな
ど、文字を同一の字形
で繰り返し表現するもの
を「活字」といいます。活字に

よる印刷は、一四〇〇年代半ば、
グーテンベルクにより始められ、
活字と印刷術は中国を経由して、
明治初頭、日本へ伝来しました。
活字の伝来により、一枚の紙に印
刷される文字量と印刷部数が増え
ると、文字を通して伝えられる情
報量も格段に増加しました。外国
人居留地のあつた横浜は、幕末か
ら明治初期にかけて、活字伝来の
一拠点であり、活版印刷の黎明期
における情報の発信地でした。

本展示では、ヨーロッパで誕生
した漢字活字と、その日本への伝
来の経緯、横浜を中心に活字と印
刷術伝来の広がりをたどります。
デジタルフォントに囲まれた現在
の活字文化のルーツを探る展示で
す。(文 石崎康子)

活字 近代日本を支えた 小さな巨人たち

会期 2022年12月10日(土)～
2023年 2月26日(日)



「硝子活字初号明朝見本帳」

【展示概要組版】
せんだいメディアアテーク蔵、
同館活版印刷研究会 内田明氏に
よる組版・撮影、反転して掲載

企画展報告

「令和3年度横浜市指定・登録文化財展」 「浄土の庭―称名寺境内国史跡指定1000年―」

令和三年度冬季、横浜市教育委員会との両主催で、二つの企画展を同時開
催しました(会期：令和三年二月四日(土)～令和四年一月二〇日(月・祝))。

「令和3年度横浜市指定・登録文化財展」では、当該年度の横浜市指定文
化財二件のうち、前年度の特別展「横浜の仏像」への出品から日が浅い彫刻
木造薬師如来立像(宗教学人證菩提寺蔵)を文化財保護の観点から写真パネ
ルで紹介し、もう一件の有形民俗 オシヤモジサマ(奉納杓子)(宗教学人本
法寺蔵・個人蔵)一、三六七点のうちか

ら七〇点余と、平成八年度指定文化財の
典籍 紺紙金字法華経 八巻(宗教学人法
性寺蔵・横浜市歴史博物館寄託)を展示
しました(オシヤモジサマについては「横
浜市歴史博物館News」No.51・52合併
号参照)。美しい装飾経である紺紙金字
法華経は、同時開催した「浄土の庭」展
にちなんで出陳したもので、平安時代末
期の浄土信仰に思いをさせていただけた
のではないのでしょうか。また、令和三年
度に横浜市教育委員会が着手した小机城
址の発掘調査に関する速報展示コーナ―
を設けました。発掘調査は継続中ですが、
今後とも地元の中世城郭小机城へ関
心をお寄せいただけましたら幸いです。

「浄土の庭―称名寺境内国史跡指定



鎌倉時代の称名寺反橋橋脚



文化庁「記念物100年」パネル展示

一〇〇年―」は、令和四年が、大正十一年(一九二二)の「称名寺内界」国
史跡指定から一〇〇年、昭和四十七年(一九七二)の「称名寺境内」追加指定
から五〇年の節目の年であることを記念する企画展で、文化庁主催「記念物
一〇〇年」事業の関連事業として開催しました。鎌倉時代の称名寺反橋橋脚
(公財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター蔵)の露出展示を中心
とした展示空間を構成し、保存に関する行政担当者の記録や新聞記事等を収
集したスクラップブック(神奈川県立金沢

文庫蔵)、史跡指定と保存整備に関わる行
政関係文書群(横浜市史資料室・横浜開港
資料館蔵)等のアーカイブ資料を通じて、
五〇年前の称名寺境内の開発と保存とのせ
めぎ合いや、史跡指定と保存の歩みを紹介
するとともに、観無量寿経(遊行寺宝物館
蔵)等の仏典や、釈迦堂ヶ谷奥やぐら群出
土元弘三年銘五輪塔地輪(鎌倉国宝館蔵)
等の展示資料を通じて、武家の浄土庭園の
代表例である称名寺境内に帰結する浄土信
仰の歴史と、称名寺を造営した金沢北条氏
の盛衰をお伝えしました。

貴重な資料の出品や掲載などにご協力く
ださった関係各位、ご来場いただいた多く
の皆様、心より御礼申し上げます。

(文 柳沼千枝 現・横浜ユーラシア文化館)



大塚・歳勝土遺跡公園だより

「よこはま縁むすび講中」と「かやぶき屋根プロジェクト」2

「よこはま縁むすび講中」は今年も活動予定です。横浜市北部4区の間でどのような連携ができるのか、構成団体の皆さんと打ち合わせを重ねて計画を進めているところです。

色々と決まった際は「よこはま縁むすび講中」のWebサイトに情報をアップしますのでそちらをご覧ください。

令和3年度は「よこはま縁むすび講中」のひとつと位置付けて行った「かやぶき屋根プロジェクト」。令和4年度は6月から月1回のペースで大塚遺跡の復元竪穴住居の茅葺屋根修繕を実施しています。

この夏は酷暑とも呼べる日々が続いていますが、無理のない範囲で継続していこうと思います。

横浜市歴史博物館のある都筑区は、港北ニュータウンの開発が始まるまでは茅葺屋根の建物も並ぶ農村地帯でした。「かやぶき屋根プロジェクト」では茅や茅葺屋根、地域のことをもっともっと学ぶために、当時の都筑区の様子について講座を行う予定です。

また、茅葺職人による講習会や他施設の茅葺屋根修繕についての研修など、今までどおりのこと、今までとは少しちがうことも進めていきます。

各種事業については今後の遺跡公園だよりで活動報告を行う予定です。(文 橋口豊)



<http://yokohama-enmusubi.jp>



はじりぐちけん(原出口遺跡出土筒形土偶)

令和4年(2022)は横浜市歴史博物館の土器や石器が東京・神奈川・大阪・宮崎・新潟の5都府県へ出張予定です。僕はどこにも行かないけれど、お隣の展示室にいる『かみだいさん』が大阪府立弥生文化博物館へ出張します。じつは『かみだいさん』は3人います。『かみだいさん』の『そっくりさん』は当館と神奈川県立歴史博物館の展示室にいます。その『しんのすがた』は当館の奥深くに鎮座しているのです(驚き!)。今回は『しんのすがた』の『かみだいさん』が出張しますので当館、神奈川県立歴史博物館から『かみだいさん』がいなくなることはありません。安心してね!



かみだいさん(上台遺跡出土土人面付土器)

詳しくはこちら▶



ミュージアムショップ MUSEUM SHOP

オンラインショップ



詳しい商品情報はこちら



②「マイキャラクリアファイル」
博物館マスコットのレックルと一般公募から選ばれたマイキャラたち
価格: 330円(税込)



①ダブルポケットクリアファイル「浦賀沖海岸警備絵図」
令和3年10月2日~11月23日まで開催の企画展「横浜の大名」関連グッズ
価格: 500円(税込)



③「寄木チケットファイル」(左)表面 (右)中面
平成30年9月22日~11月11日まで開催の企画展「寄木細工 Art & History」関連グッズ 価格: 360円(税込)



特別展「みんなでつなげる鉄道150年」開催時のショップ
令和4年3月19日~9月25日まで開催



定番のはにわグッズも充実しています

店長おすすめのオリジナルグッズ

当館ミュージアムショップでは、色々なオリジナルグッズを作っています。今回は、クリアファイルを三点ご紹介いたします。
①企画展の関連グッズとして製作した「浦賀沖海岸警備絵図」はダブルポケットタイプ。たくさん書類が入ります。
②博物館マスコットのレックルと一般公募から選ばれたマイキャラたちとのコラボクリアファイル。A4サイズです。
③「寄木チケットファイル」はマスクケースとしても使えます。どれも求めやすい価格ですので、博

物館にお越しの際には是非、手に取っていただけると思います。こちらの三点はオンラインショップでも購入できます。
また、ショップでは企画展ごとにレイアウトの変更、関連グッズを仕入れしています。スタッフ一同、いつ来ても飽きないお店作りを目指しています！
定番のはにわグッズや工作キットも充実していますよ。
ご来館の際にはミュージアムショップにお立ち寄りください。お待ちしております！(文 遠山由希)

活動報告

向導寺(泉区・岡津町)
阿弥陀如来坐像の
修理がはじまりました



本像は平安時代後期、11世紀につくられた阿弥陀如来像で、横浜市指定文化財第一号でもあります。損傷がはげしく、長らくバラバラの状態と保存されており、昨年開催の「横浜の仏像—しられざるみほとけたち」(令和3年1月23日～3月21日)には仮組みの姿でお出ましました。地域に伝わった大切な像をこのあとの時代にも残していくためには、専門的な保存修理が必要です。前号でご紹介したとおり、展示会場では修理のためのご寄付のお願いにたくさんの募金をいただきましたが、本年度いよいよ修理事業に着手することとなりました。文化財の修理は所蔵者、専門家、修理担当者、自治体・博物館職員などの関係者間で検討を重ねながら慎重に進める必要があります。5月には修理工房へ移した像をまえに修理方針を話し合いました。令和5年(2023)3月までつづく修理の進捗や処置の詳細は追ってご報告します。(文 花澤明優美)

川崎市市民ミュージアムは、令和元年(2019)10月12日の令和元年東日本台風によって、甚大な被害を受けました。今も施設は休館しており、現在は川崎市内の他施設やオンラインを活用しつつ、博物館、美術館活動を継続しています。そんな他施設活用の展示会活動として、令和4年2月3日～16日まで、ミューザ川崎にて、「鉄道操車場物語—新鶴見から塩浜まで—」が開催されました。

同展示は、充実した内容でありながら、会期が短かったこともあり、同じ鉄道を扱った展示であるという縁から、特別展「みんなでつなげる鉄道150年—鉄道発祥の地よこはまと沿線の移り変わり—」を開くなかで、「鉄道操車場物語」展示会の内容のパネル展示を行うことになりました。企画展名「みんなでつなげる」が、正にカタチとなったパネル展示となりました。

なお、被災当初から始められた資料レスキューは、現在も続けられており、当館も職員をレスキューの作業に派遣し、復旧活動の一助となるよう協力しています。(文 小林光一郎 石崎康子)



出張パネル展示

川崎市市民ミュージアム
企画展「鉄道操車場物語
—新鶴見から塩浜まで—」

レキハクファーム DIARY

レキハクファーム通信 4

植えたもの 陸稲

4月20日
種まき(1回目)
1年ぶりの種まきに心躍る



5月2日
除草・畝の整え
お隣のLovelfarmのフジタさんに会う



5月23日
除草
この時点では20株くらい発芽



5月30日
除草
この時点で10株ちょっとに減って凹む
→2回目の種まきを決意

6月5日
種まき(2回目)
レキハクファーム存亡の危機!? 4年目の失敗は避けたい一心で種まき



6月13日
除草・水やり
2回目にまいた種籾の発芽の確認して喜ぶ

6月27日
除草・水やり
6月なのに猛暑でめげそうになる



6月29日
水やり
朝の出勤前の涼しい時間に立ち寄り



7月2日
除草・水やり
全部で48株が成長していることを確認



7月13日
除草
前日の大雨の被害があるかないか気になって立ち寄り



陸稲の種を2回まく!?

News49号から久しぶりのレキハクファーム通信4号です。初年度以来、なかなか陸稲の実りが得られなかったレキハクファームですが、今年もあきらめずに(?)チャレンジしていますので、本号ではその様子をお伝えします。

実は、今年4月20日と6月5日と2回、陸稲の種まきをしているんです。これは何も特別な栽培方法というわけではなく、4月にまいた種籾は古いモノで発芽率が良くなく、急遽、昨年収穫された新しい種籾を使って6月に2回目の種まきをした、というのが実際のところ。

うるち米の陸稲の種籾は現在農林24号というものが流通しておらず、入手が難しいことから、古い種籾を大切に使用してきたのですが、やはり古くなると発芽率が落ちるようです。(しっかりと塩水で選別はしているのですが...)

そんな事情はありつつも、気を取り直して6月にまいた陸稲は1週間ほどでたくさんの株が発芽しました。やはり毎年新しい種籾を使用しないといけないという、当たり前のことを再認識した次第です。

今年はあつという間に梅雨が終わってしまい、暑い夏を迎えましたが、例年以上に、しっかりと除草と水やりにレキハクファームへ行きたいと思います。6月末時点で48株が育っていましたが、秋の収穫まで何株が残ってくれるかな?頑張って育てていきたいです。(文 羽毛田智幸)

https://twitter.com/rekihaku_farm
横浜市歴史博物館レキハクファーム通信 (@rekihaku_farm) で日々の活動の様子をつぶやいています!

館長コラム vol.2

称名寺境内の保存と活用

— 史跡指定100年に考える —

館長 佐藤 信



館長です

して全国のトップをきって大正一一年（一九二二）に史蹟指定を受けたのが、称名寺内界でした。今年は、それから百周年を迎えます。横浜市歴史博物館では、この機会に企画展「浄土の庭—称名寺境内国史跡指定一〇〇年—」を令和三年一二月から開催しました。

今は「称名寺境内」という史跡名称ですが、大正一一年の指定時には「称名寺内界 附金沢氏墓及開山審海上人以下世代塔」という名称でした。これは、境内の宗教的内界の一部に限定した指定範囲でした。戦後、法隆寺金堂の焼失という悲劇的事件を背景に、有形文化財を対象とした国宝保存法（昭和四年）と記念物を対象とした史蹟名勝天然記念物保存法を合体して、新しい文化財保護法（新法、同二五年）が、超党派の議員立法で成立・施行されました。この時、「史蹟」は「史跡」、「記念物」は「記念物」と表記が改められ

たのです。

その後、高度経済成長の時代に全国に開発の波が押し寄せるなかで、昭和四五年（一九七〇）頃、称名寺周辺にも民間開発業者による住宅開発が及んできました。「称名寺裏山開発」とも呼ばれた問題です。当時の史跡には称名寺を囲む背景の山並みや惣門より手前の仁王門などは指定範囲に入っていませんでした。開発業者は、称名寺周囲の山を削りはじめましたが、これに対して、地元市民、文化財関係者、研究者、学会や横浜市・神奈川県議員、そして学生たちが保存の声を大きく上げました。保存運動は全国的に広まり、マスコミも大きく報道しました。研究により、称名寺の境内が周囲の山々の稜線までふくむことが絵図などで明らかになり、横浜市・神奈川県として文化庁（当時は文化財保護委員会）のねばり強い努力が実って、ようやく開発業者の工事を途中で止め

て、昭和四七年に、史跡指定地を拡大して追加指定し、あわせて名称を「称名寺境内」に変更することになったのです。

開発業者が工事を強行する緊迫した状況下に、史跡指定地を拡大して土地を公有化する行政的手続きを迅速に進めることは大変な作業でしたが、市民・国民の声を背景に、横浜市・神奈川県・文化庁のチームワークと奮闘で、危機を乗り越えたといえます。この時文化庁で尽力されたのが、のちに横浜市歴史博物館の初代館長になられた平野邦雄主任文化財調査官でした。同じ頃には、全国でも大宰府史跡（福岡県）・一乗谷朝倉氏遺跡（福井県）など大規模史跡の保存が課題となり、努力の末に史跡指定が実るなかで、首都圏の称名寺の保存は、大きな成果として記憶されています。

これにより、称名寺の伽藍や浄土庭園の美しい園池をとりまく山並みの緑のなかで、豊かな

歴史的景観が今に残ることとなりました。金沢文庫や鎌倉の外港であった六浦港の遺跡群とも一体となって、歴史・文化的な

高い価値が伝えられています。指定一〇〇年を迎えた称名寺境内の歩みを考えると、先人たちの努力で守られてきた文化遺

産を、これからもさらに地域の人々とともに保存・活用してその価値を高めていきたいと思えます。

令和3年度横浜市指定・登録文化財展

【開催期間】
横浜市歴史博物館（横浜市歴史博物館）/ オシャレジマ（浄土寺） 観覧券
※掲載写真について一部権利関係をおこなっています。

【観覧料】
（金・祝・祭）一般500(400)円、高校・大学生300(240)円、小・中学生・横浜市内在住65歳以上100(80)円
（平日）一般300(240)円、高校・大学生100(80)円、小・中学生・横浜市内在住65歳以上100(80)円
※1回1団体20名以上の料金

【主催】（公財）横浜市ふるさと歴史財団、横浜市教育委員会

2021 12.4 土

2022 1.10 月 祝

開館時間：9:00～16:30（準休は16:00まで）
休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、12月27日（月）～ 令和4年1月4日（火）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会期・開館時間・開催イベント等については変更する場合があります。最新の情報は横浜市歴史博物館ホームページまたはお電話にてご確認ください。

同 | 時 | 開 | 催 | 企 画 展

浄土の庭

— 称名寺境内国史跡指定100年 —

横浜市歴史博物館
Yokohama History Museum

大正100年

企画展「浄土の庭—称名寺境内国史跡指定100年—」ポスター（同時開催：「令和3年度横浜市指定・登録文化財展」）

ラストサタデー プログラム

月の最終土曜日に開催している、
特別なイベントをご紹介します！

おもしろいぞ！紙芝居

横浜市指定有形民俗文化財でもある街頭紙芝居の複製を中心に実演します。マンガモノから冒険活劇まで、昭和の子どもたちが熱中した街頭紙芝居の世界を体験してください。



わたしたちが、
会場でお待ちしています！

毎月実施。各日6回上演。
開始時刻はHPイベント
一覧ページでお知らせし
ます。



バックヤードツアー

普段は見られない博物館のウラガワを見学します。
ホンモノの資料に出会えるかも？！

レックルも中が
気になるようす。
STAFF ONLYの扉の
むこうがわへ
ご案内します！



隔月実施（9月、11月、1月、3月）。
事前申し込み制。申し込み方法等詳
細はHPイベント一覧ページでお知
らせします。



このほかにも展覧会に合わせたイベントなどが加わることもあ
ります。毎月さいごの土曜日はぜひ当館にお越しください！



平成10年撮影



平成20年撮影 古代史講座



平成22年撮影
特別展「古代の役所と地域社会」展示解説

主な担当展覧会

- つちもの 兵の時代 古代末期の東国社会
（平成10年）
- 古代を考えるⅢ 文字との出会い
南武蔵・相模の地域社会と文字
（平成15年）
- 「諸岡五十戸」木簡と横浜 大宰律令以
前の支配システムを探る（平成18年）
- 島山重忠 横浜・二俣川に散った武
蔵武士（平成24年）

あの学芸員は、いま



ひらの たくじ
第3回 平野卓治さん（日本大学文理学部教授）

【在職期間】平成2年（開館準備室）～平成27年

4年ぶりとなる「あの学芸員は、いま」の第3回は、平野卓治先生です。平野先生は、平成2年（1990）から歴史博物館の開館準備室にあたる「横浜市教育委員会文化財課歴史博物館建設等担当」の嘱託職員として常設展示室の基本設計や実施設計に携わり、以降横浜ユース文化館の副館長に異動される平成27年まで、当館の礎を築かれてきました。担当された展覧会は大小交えて15本にも上ります。平成30年に横浜市ふるさと歴史財団を退職され、現在は日本大学で教鞭をとられています。

Q 大学でのお仕事はいかがですか？
専門は日本古代史ですが、大学ではこれまでの博物館での活動経験をもとに、学芸員課程の講座を主に担当しています。博物館概論から始まり、博物館経営論や博物館資料論、また資料を取り扱う実習のほか、モノ資料を視点に歴史を考える文化財学と文化財学ゼミナールもあります。各ゼミ生が関心を寄せる文化財はさまざまで、時代も自由です。それぞれの発表を聞くと、こちらも考えさせられることが多々あります。

Q 開設準備室時代のことを教えてください。
建物の設計がほぼ終わるころに準備室に入り、常設展示室の基本設計と実施設計が最初の仕事でした。その後は模型製作やグラフィックパネルの制作、博物館の資料収集方針や要綱の制定と収集活動などにも取り組みました。開館記念特別展の調査では、横浜市の姉妹都市等の博物館に海外出張も行いました。開館記念特別展「弥生のいくさと環濠集落」では韓国の国立博物館から資料を借用しましたが、通関手続きに難渋したことを思い出します。

Q 思い出に残る展覧会は？
開館してからはがむしゃらに展覧会をやっ

てきましたが、そのような中で、お互いに連携できる関係も他館と築いてきました。また、専門である古代の展示で心掛けたことは、東国や東日本地域を視野に入れた形で横浜地域の古代史像を描き、相対化することでした。武蔵国府がある府中市郷土の森博物館、橘樹郡家がある川崎市市民ミュージアム、当館が連携した平成一五年の企画展「古代を考えるⅢ 文字との出会い 南武蔵・相模の地域社会」は、それぞれの地域はもちろん、三館の展示を通じて古代の武蔵南部を相対化した取り組みとして、強く印象に残っています。

Q 博物館へのメッセージはありますか？
横浜市歴史博物館は、日本最大の政令指定都市に設けられた歴史博物館ですが、その立ちは地味な地域博物館という一面とともに、横浜のシテイミュージアムという一面もあり、一筋縄ではいかないところがあると思います。これまでも多様な視点や方法で活動を進めてきましたが、昨今の博物館を取り巻く環境が変わる中、今後横浜の歴史をどのように描いていくのか、その使命を果たすべく、新たな歴史像の構築を考え、取り組んでいただけたらと思います。

INFORMATION

展覧会

- 特別展「みんなでつなげる鉄道150年
—鉄道発祥の地よこはまと沿線の移り変わり—」
令和4年3月19日(土)～9月25日(日)
- 企画展「追憶のサムライ—横浜・中世武士のイメージとリアル—」
令和4年10月8日(土)～11月27日(日)
- 企画展「活字 近代日本を支えた小さな巨人たち」
令和4年12月10日(土)～令和5年2月26日(日)

イベント

- れきし工房(事前申し込み制)
歴史や文化を楽しく学びながら、オリジナル作品を作ります。
※詳細は随時、博物館ホームページ等でお知らせします。
まがたま作り
スタッフサポートのもと、「まがたま(滑石)作り」を体験していただけます。
小さな縄文土器づくり
横浜市内でみつかった縄文土器をお手本として、小さな土器を作り、焼き上げます。
- 濱ともデー
毎月最終水曜日、濱ともカードをお持ちの方は無料でご観覧いただけます。

展示関連イベントや
ワークショップ等の
開催については、
当館ホームページ、
twitterにて随時
お知らせしていきます!



まがたま
(かっ石)



まがたま作り(イメージ)

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

●開館時間

9:00～17:00(入館・券売は16:30まで)
大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

月曜日(祝日、振替休日の場合は翌日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時休館することがあります。

●常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上、1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生 横浜市内在住65歳以上	100円	80円

- 特別展・企画展の観覧料は別に定めます。
- 毎週土曜日、小・中・高校生は無料です。
- 横浜市内在住の65歳以上の方は「濱ともカード」など証明できるものをご提示ください。
- 「身体障害者手帳」「愛の手帳(療育手帳)」[精神障害者保健福祉手帳]をお持ちの方と介護者は無料です。入館の際に手帳または、スマートフォンアプリ「ミライロID」の手帳画面をご提示ください。
- 補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)とご一緒に入館できます。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会期・開催時間等の予定を変更する場合があります。最新情報はお出かけ前に、当館ホームページまたはお電話にてご確認ください。

●交通

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
駐車場あり(30分100円)



横浜市歴史博物館

〒224-0003
横浜市都筑区中川中央1-18-1
Tel.045-912-7777(代表) Fax.045-912-7781
<https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>
twitter @yokorekihaku

横浜市歴史博物館ニュースNo.53 2022年8月31日発行
編集・発行 横浜市歴史博物館
デザイン 株式会社フィールド・ノート、柳原梢子(やなぎ堂)